

1 市勢

1. 市の概要
2. 三原市の市章
3. 市の花・木・イメージカラー
4. 市民憲章
5. 市歌
6. 名誉市民
7. 主要年表
8. 市の位置
9. 人口及び世帯数の推移
10. 主要指標
11. 市庁舎
12. 三原市長期総合計画
13. 県立広島大学三原キャンパス

1. 市の概要

(1) はじめに

三原市は、2005（平成17）年3月22日に、三原市、本郷町、久井町、大和町が合併して出来た新しい市です。人口は96,205人、世帯数39,629世帯（平成27年国勢調査）、広島県の中央東部に位置し、面積は約471km²で、広島県の5.6%を占めています。また、中国・四国地方のほぼ中心にあり、当地方の各地域と連携する上で恵まれた地理的条件を有しています。

まちづくりの指針である三原市長期総合計画では、「行きたい 住みたい つながりたい 世界へはばたく 瀬戸内元気都市みはら」を将来像として定め、県内外や世界から「行きたい」と思われ、市民がまちへの誇りと愛着を持ち「住みたい」と感じ、さらには、世界や全国、市内各地域や市民一人ひとりが三原市をきっかけに「つながりたい」という思いが広がるような、世界へはばたく元気な三原の実現をめざします。

(2) 自然条件

地形は、大峰山系によって区分される南部と北部とでは様相が異なっており、南部には、沼田川流域の平野に加えて、瀬戸内海と山地に挟まれた帯状の平野が広がり、北部には、世羅台地の一部をなす丘陵状の平地が広がっています。

また、南部から北部にかけて変移する瀬戸内海と山地・丘陵が織りなす自然の多様性を有する本地域は、瀬戸内海国立公園、佛通寺御調八幡宮県立自然公園や竹林寺用倉山県立自然公園、国指定の天然記念物の久井の岩海等の景勝地、白竜湖等の湖沼・河川や丘陵などがあります。

気候は、温暖・多照寡雨といった瀬戸内式気候区に属し、総じて暮らしやすい気候にあります。年平均気温は南部で15～16℃、北部で12～13℃、年間降水量は南部で約1,200mm、北部で約1,300mmとなっており、特に南部は、県内でも温暖で小雨な地域となっています。

(3) 歴史条件

三原市には、御年代古墳をはじめとして縄文・弥生・古墳時代の遺跡が残されており、古くから人びとの生活が営まれていたことがうかがえます。平安時代には、楽音寺や昭和30年代まで続いた杭の牛市など今に残る歴史資源が創設されたほか、沼田庄や杭の庄等の荘園が経営され穀倉地としての役割を果たしてきました。

鎌倉時代から戦国時代にかけては、小早川氏が台頭し、小早川氏ゆかりの棲真寺が創建されたほか、棕梨（堀）城・高山城・新高山城や三原城が築城されました。江戸時代には、広島藩の領地となり、城下町として繁栄したほか、新田開発や技術向上により農業が発達しました。

明治時代以降は、帝人や三菱重工業等の大工場の立地により旧三原市が近代工業都市として発展したほか、本郷町・久井町・大和町は米作地域としての役割を果たしてきました。

また、本地域は、古来から近畿と九州を結び四国と連絡する海上交通の要衝として発展するとともに、本郷町・久井町は旧山陽道沿いの宿場として繁栄するなど、山陽道の要衝地としての役割を担ってきました。

(4) 交通体系

道路網は、山陽自動車道と国道2号・185号・432号・486号および主要地方道三原東城線などにより、地域内外を連絡する格子状の骨格道路網が形成されています。

また、平成24年3月に三原バイパスが全線開通となり、国道2号線の慢性的な渋滞の緩和や災害時の代替道路として大きな効果が期待されています。

あわせて、同バイパスと一般国道2号尾道バイパスを結ぶ、木原道路建設事業が平成15年度より

進んでおり、三原市内の国道2号の渋滞緩和や異常気象時における特殊交通規制（波浪・路面冠水）区間の代替路を確保するとともに山陽自動車道、中国横断自動車道尾道松江線、西瀬戸自動車道との連結機能を図り、アクセス性の向上及び尾道、三原の両バイパスと一体となった交流・連携の促進や物流の効率化を目指しています。

公共交通機関としては、三原駅をターミナルとするバスネットワークが形成されているほか、JR山陽新幹線とJR山陽本線・呉線による鉄道網が形成されています。また、重要港湾尾道糸崎港の三原内港と地方港湾須波港を発着する、瀬戸内海島しょ部との航路網も大きな役割を果たしています。

本地域は、中国・四国地方唯一の地域拠点空港に位置付けられている広島空港を擁することが大きな特長となっています。同空港の利用は、開港以来、東京便を中心に年間約300万人に利用されています。また、計器着陸装置の高度化事業が完了し、平成21年6月からCATⅢbの運用が開始され、就航率の向上や定時運行の確保などの利便性が向上されました。同空港へのアクセス交通としては、リムジンバスや高速バスの利用を主体とする自動車アクセスにより、県内にとどまらず岡山・今治方面とも連絡されています。

また、平成23年4月に広島中央フライトロードの本郷～大和間が開通し、空港北部地域との自動車アクセスが強化されました。

古くから海上・陸上交通の要衝として発展してきた本地域は、広島空港・山陽新幹線や山陽自動車道（本郷IC、三原久井IC）といった高速交通ネットワークに恵まれており、本地域がその中心に位置する中国・四国地方において、陸・海・空の交通拠点としての役割を果たしています。

2. 三原市の市章（平成17年10月1日制定）



三原市の「三」をモチーフにデザイン化。上位の曲線は雄大な空を、中位の曲線は山々や豊かな大地を、下位の曲線は瀬戸内海を、3つの円は水しぶきを表現しています。

自然に恵まれ、培われた歴史や文化と共存・共榮し、人々のふれあいを大切に、希望に満ちた明るい活力ある未来へ向かって、大きく飛躍する海・山・空 夢ひらくまちをイメージしました。

3. 市の花・木・イメージカラー（平成17年10月1日制定）

市の花・・・・・・・・サツキ

市の木・・・・・・・・クスノキ

イメージカラー・・・・・・・・ディープブルー（濃い青色）

4. 市民憲章（平成17年10月1日制定）

わたしたちは、海・山・空 夢ひらくまち三原をめざして、この憲章を定めます。

- 1 豊かな自然をいかし、美しいまちにしましょう。
- 1 歴史と文化を大切に、人をはぐくむまちにしましょう。
- 1 みんなで助け合い、人がふれあうまちにしましょう。
- 1 心もからだも健康で、明るいまちにしましょう。
- 1 楽しく働き、活力あるまちにしましょう。

5. 市歌 (平成18年4月1日制定)

未来へ かがやく三原

作詞 三原市市歌制定委員会
補作 岩崎文人
作曲 堀内俊男

Moderate

Introduction for the song, marked 'Moderate'. It features a piano accompaniment with a treble clef and a bass clef. The tempo is marked 'Moderate'. The music starts with a treble clef and a bass clef. The tempo is marked 'Moderate'. The music starts with a treble clef and a bass clef.

- 一 和久原沼田の 流れ清く
しまなみ遙か 瀬戸の海
文化と歴史 はぐくみ伝え
未来へ
かがやく三原

mf

わ く ば ら ぬ た の な が れ き よ ー く
り ゆ う お う う ね の な み が ど り ふ か ー く

mf

- 二 龍王宇根の 緑ふかく
ひろがる大地 高い空
希望と願い 翼に乗せて
世界へ
はばたく三原

し ま な み は る か せ と の う み ら
ひ ろ が る だ い ち た か い そ ら

13 mp cresc.

ぶ ん か と れ き し は ぐ く み つ た え
き ぼう と ね が い つ ば さ に の せ て

13 mp cresc.

17 f

み ら い へ か が や く み は ら
せ か い へ は ば た く み は ら

17 f

6. 名誉市民

多田 太朗（ただ たろう）本郷町出身

明治30年生まれ。戦前から約40年にわたり、本郷町で開業医として地域医療の発展のために尽力され、多くの町民から慕われた。その功績は高く評価され、勲五等瑞宝章と紺綬褒章を授与された。

第2代本郷町長に就任されてからは、以後の発展の礎を築くとともに、地方自治の振興にも大きく寄与された。町外へ転出後も多くの町民に慕われ、訪ねる人が後を絶たなかったという。

また、芸術活動を通して世界平和への願いを広く発信し、芸術文化の振興にも貢献された。

平成7年4月、98歳で逝去される。

村田 兆治（むらた ちょうじ）本郷町出身

昭和24年生まれ。東京オリオンズ（現・千葉ロッテマリーンズ）に入団し、1年目に初完投・初勝利を飾る。「マサカリ投法」と呼ばれた独特の投法で注目され、最優秀選手賞、奪三振王、MVPなどを受賞し、輝かしい成績を残された。

投手生命を危ぶまれた肘の故障から見事に復活し、日曜日ごとに登板して力投する姿から「サンデー兆治」の異名をとった。自分の限界に挑戦し続ける姿は人々に感銘を与え、東京都都民文化栄誉賞を受賞されている。

現在は、野球評論家としてテレビやラジオに出演されているほか、全国各地で講演・野球教室を開催し、地域のスポーツ文化の発展にも大きく貢献されている。

古川 喬雄（ふるかわ たかお）大和町出身

大正2年生まれ。終戦直後、食品の鮮度を長期間保つことができる真空パックを研究し、国産初の真空包装機を誕生させた。

その後も技術開発に意欲的に取り組まれ、世界一の高速・高性能なロータリー真空包装機の開発に成功された。真空包装は、生鮮食品の保存方法として世界中に普及し、日本の産業発展に大きく貢献するとともに、私たちの暮らしに欠かすことのできない技術となっている。

また、寄附活動などを通じ、大和町の経済発展にも大きく貢献された。

平成14年12月、89歳で逝去される。

新藤 兼人（しんどう かねと）

大正元年生まれ。映画・テレビドラマの監督・脚本家として、長年にわたる創作活動の中で数多くの名作を残された。中でも、映画監督として評価は世界でも高く、国際的な賞を数多く受賞し、世界における日本映画の評価を高められた。

大手の映画制作会社に属さない独立プロとして、厳しい環境の中でも意欲的な創作活動を続けながら、後進の育成や関係団体の円滑な運営にも尽力され、映画界の発展に大きく寄与された。

代表作である映画「裸の島」「かげろう」は三原市を舞台に制作され、三原市を第二の故郷として生涯こよなく愛された。平成24年、100歳で逝去。「裸の島」のロケ地である宿禰島は、監督の遺志を受け継ぐ団体が所有権を取得し、市へ寄贈された。

池田 敬子（いけだ けいこ）鷺浦町出身

昭和8年生まれ。高校時代から本格的に体操を始め、日本体育大学に進学。全日本選手権大会で優勝、メルボルン、ローマ、東京と3度のオリンピックに出場し、東京大会では日本女子体操界の悲願だった銅メダルを獲得するなど現役を引退されるまで世界を舞台に華々しく活躍された。

引退後は、体操クラブを開き、後進の指導に尽力され、数多くの一流選手を育成。日本体育大学の助

教授，教授を歴任し，教育面でも活躍された。平成14年には日本女子体操で初めての国際体操殿堂入りを果たした。

NHK経営委員，文部省婦人教育会館運営委員，日本体操協会副会長など，数々の要職にも就かれた。関係団体の運営にも尽力し，現在も日本体操界の発展に大きく貢献されている。

大田 堯（おおた たかし）

大正7年生まれ。戦後の新教育の実践的研究を本郷町を中心に実施し，地域に根ざした教育を「本郷地域教育計画」として具体化し，指導された。

東京大学教授，日本教育学会会長などの要職を歴任される一方で，「少年・少女の家構想」のもと，絵本や読み語りを通じて子どもの豊かな情操を養う場として，「ほんごう子ども図書館」の建設・運営に尽力された。

ボランティアによる運営や活動を通じた地域住民間の文化交流も重視され，現在も多く住民に慕われている。広く教育文化の発展に貢献された功績は，高く評価されている。

平成30年12月，100歳で逝去される。

7. 主要年表

西 暦	年	月	日	主 な で き ご と	
2005	平成17.	3.	22	三原市、豊田郡本郷町、御調郡久井町、賀茂郡大和町が合併し、三原市誕生 三原市消防署西部分署大和出張署開所	
			4.	1	県立広島大学三原キャンパス開学（県立三大学の統合）
			4.	24	三原市長選挙・三原市議会議員一般選挙
			5.	18	平成17年第1回三原市議会臨時会開会
			10.	1	三原市合併記念式典開催 市章、市の花・木・イメージカラー、市民憲章を制定
2006	平成18.	3.	12	天満屋三原店閉店（昭和56年3月の開店から25年間の営業に幕を降ろす）	
			3.	15	本郷学校給食共同調理場が竣工
			4.	1	三原市歌を制定
			4.	26	山陽自動車道塩化第二鉄流出事故発生
2007	平成19.	2.	8	都市計画道路糸崎港線開通（延長1,282m 本線幅員12.0m 支線幅員16.0m）	
			4.	1	市営バス路線民間移譲（幸崎線、小泉線、田野浦線、八幡線、福地線、深線）
			4.	30	トスコ自動車学校事業廃止（昭和38年2月開設から44年間営業）
			5.	28	三原バイパス 時広ランプ～中之町ランプ間の供用開始 延長約1.6km
			10.	14	三原市芸術文化センター（ポポロ）開館
2008	平成20.	3.	31	市営バス事業を廃止 鷺浦中学校閉校	
			4.	1	後期高齢者医療制度の開始 市営バス路線民間移譲（頼兼線、本郷線、市バス車庫線） 大和認定こども園開園
			6.	5	広島空港がCATⅢaを導入
			10.	15	三原・生口航路の廃止
			2009	平成21.	2.
3.	8	スケートパーク三原がオープン			
4.	12	三原市議会議員一般選挙			
6.	10	広島空港がCATⅢbを導入			
6.	25	ペアシティ三原東館跡地を取得			
2010	平成22.	3.	6	三原ふるさと大使の任命	
			9.	25	11月1日を「三原教育の日」に制定
			12.	4	市議会本会議での一般質問における、対面方式による一問一答方式を導入
			3.	6	広島県立久井高等学校が閉校
			3.	31	三原市立くい市民病院が閉院
			4.	1	公立くい病院が開院
			4.	29	三原駅前市民広場が完成
2011	平成23.	1.	28	総合技術高校が第83回選抜高校野球大会の中国・四国地区代表に初選出	
			2.	3	三原市土地開発公社が広島県知事の解散認可により解散
			2.	10	広島空港の国際線利用者が500万人を達成
			3.	11	東日本大震災が発生
			4.	10	棲真寺公園が完成
			4.	20	広島空港大橋（広島スカイアーチ）を含む広島中央フライトロードの本郷～大和間が完成 延長約10km

西 曆	年 月 日	主 な で き ご と		
2011	平成23.	7. 2 三原バイパス第4トンネルが貫通		
		9. 28 三原市立西小学校新校舎竣工		
		10. 1 きれいな三原まちづくり条例が施行 公立くい病院が診療所に移行		
2012	平成24.	3. 24 道の駅「みはら神明の里」が開業		
		3. 31 三原バイパスが全線開通 延長約10km		
		4. 1 三原市議会基本条例が施行		
		5. 4 三原市清掃工場内にストックヤードが開設		
		5. 29 三原市名誉市民の新藤兼人さんご逝去（満100歳没）		
		7. 27 三原市東部共同調理場が完成		
		8. 26 公立くい診療所が完成		
		10. 29 三原西部工業団地（惣定地区）へ中国紙工業（株）の誘致が決定		
		2013	平成25.	2. 6 四代目神明大だるま（高さ3.9m, 胴回直径2.9m, 重さ0.5 t）を新調
				4. 1 もやすごみ指定袋制度を導入 市内11校を統合して、新しく沼北・久井・大和小学校の3校を開校 尾道市と消防指令センターを共同運用
4. 14 三原市長・三原市議会議員一般選挙				
7. 31 三原市汚泥再生処理センターが完成				
10. 1 円一保育所開所 三原市議会議員政治倫理条例施行				
10. 26 水道事業80周年を記念し、水のペットボトル「空にすかして飲みたいお水三原だより」発売				
10. 27 雪舟サミットに初参加				
12. 10 津波ハザードマップを全戸配付				
2014	平成26.			3. 16 三原市芸術文化センターポポロで倒木事故発生
				3. 19 和田・久井・羽倉保育所閉所
		3. 28 三原市漁業協同組合のタコの加工場完成。「三原やっさタコ」としてブランド化推進		
		3. 31 三原市民球場のスコアボード及びラバーフェンスをリニューアル		
		4. 1 尾道市・三原市消防指令センター本格運用開始 三原市武道館開館式 久井認定こども園開園		
		4. 15 三原市立南小学校（三原市円一町）落成式		
		5. 18 三原市民球場でプロ野球ウエスタンリーグ（広島東洋カープVS中日ドラゴンズ）開催		
		6. 11 市議会本会議での一般・総括質問における質問回数制限を廃止し、質問時間の30分制が導入される		
		7. 1 本郷・久井・大和地域で地域支援員が活動開始		
		7. 28 議会報告会初開催（7.28～8.29の間に市内10ヶ所で開催）		
2015	平成27.	9. 1 佐木島に宿泊研修施設「三原市サギ・セミナー・センター」オープン		
		1. 22 三原運動公園の命名権を株式会社やまみに売却決定		
		2. 6 市公式フェイスブックを開設 神明市でのだるま行列が60年ぶりに復活		
		2. 12 危険老朽空き家に対して県内初の行政代執行で解体撤去		

西 暦	年 月 日	主 な で き ご と
2015	平成27.	2. 26 宗郷雨水排水ポンプ場通水式
		3. 21 宿彌島に『裸の島』の碑を設置
		4. 12 広島県議会議員一般選挙（三原市世羅郡選挙区無投票）
		4. 14 広島空港でアジアナ航空機事故発生
		4. 22 「新藤兼人監督と映画『裸の島』を愛する会」が宿彌島を市に寄贈する
		4. 24 未来の三原市の担い手となる子どもたちに大人になるための自覚を持たせるため、全中学1年生を対象に「大人への入門式」を開催
		4. 29 合併10周年記念式典開催 市の公式マスコットキャラクター「やっさだるマン」初披露
		7. 1 築城450年事業担当事務所を三原駅前に設置
		9. 28 市長、議長等で結成された市訪問団、台湾・桃園市訪問
		10. 21 西部工業団地で高砂香料工業の新工場が竣工
		11. 13 みはら海の駅が誕生
2016	平成28.	11. 27 市中心市街地活性化基本計画が国の認定を受ける
		2. 12 瀬戸内三原築城450年事業プレオープニングセレモニー開催
		2. 22 市長、議長等で結成された市訪問団、台湾・桃園市訪問
		3. 20 船木、北方、南方小閉校式
		3. 29 三原市、安芸高田市、北広島町が広域観光に関する「三矢の訓え」協定を締結
		4. 6 本郷西小学校開校式
		4. 14 熊本地震発生
		5. 17 大和町で水道の給水区域を拡大
		7. 1 子育て世代包括支援センターすくすくを開設 築城450年事業のたる募金設置
		8. 1 三原・向田航路の廃止
		10. 1 三原城跡の堀でかいぼり実施
10. 11 新庁舎建設に伴い、市議会をゆめきゅりあセンターに一時移転		
11. 5 みはら歴史館オープン		
11. 21 市長、議長等で結成された市訪問団がNZパーマーストン・ノース市に訪問		
2017	平成29.	2. 4 三原城跡歴史公園完成式典開催 瀬戸内三原築城450年事業オープニングセレモニー開催
		3. 26 竜王みはらしライン（総延長4.6 k m）開通
		4. 1 消防署久井出張所開所
		4. 16 三原市長・三原市議会議員一般選挙
		4. 28 久井コミセン・久井歴史民俗資料館開館
		4. 29 高速船「ラビットライン」（須波港経由三原～大久野島便）運行開始（H30. 3. 31まで）
		5. 27 三原城跡の堀にコイ240匹放流（瀬戸内三原築城450年事業）
		6. 8 市議会本会議での一般・総括質問における一括質問一括答弁方式との選択制を廃止し、一問一答方式のみとする
		7. 25 NZパーマーストン・ノース市と友好都市提携に向けて交流を続けることで合意
		8. 25 地域経済のリーダーを育成する「浮城塾」を開校
		9. 25 消防本部の新庁舎が完成し、運用を開始
9. 30 みはら歴史館の来館者数が4万5,000人を突破		
10. 23 FM告知端末ラジオの配布を開始		

西 暦	年 月 日	主 な で き ご と
2017	平成29. 11. 5	瀬戸内三原築城450年事業クローリングセレモニー開催
2018	平成30. 2. 10	三原城築城500年に向けてみはら歴史館にメッセージカプセルを設置
		映画「やっさだるマン」の市内先行上映会
	2. 12	(株)八天堂が広島県と広島臨空産業団地の土地売買契約を締結
		市内全域で大地震の発生を想定した防災訓練を実施
	5. 1	コミュニティ FM (FMみはら) 開局
	5. 15	本郷産業団地初の企業立地が西川ゴム工業株式会社に決定
	5. 20	東京オリンピックの自転車競技 (ロードレース) メキシコ代表候補選手団が市内で事前合宿
	7. 6	平成30年7月豪雨災害が発生
		(死者14名(内災害関連死6名) 浸水被害2,928棟 土砂被害682棟) (H31.3.31現在)
	7. 12	加藤勝信厚生労働大臣が本市の被災状況を視察
	7. 21	安部晋三内閣総理大臣が本市の被災状況を視察
		石井啓一国土交通大臣が本市の被災状況を視察
	8. 27, 28	市議会で被災地調査及び意見交換会を実施
		湯崎英彦広島県知事が本市の被災状況を視察
	8. 29	参議院農林水産委員会被災地を調査
	9. 10	豪雨災害に伴う住民説明会を開催
	9. 14	市議会でタブレット端末運用開始
10. 17	料理人の熊谷喜八さんを三原ふるさと大使に委嘱	
11. 18	三原青年会議所が「高校生による三原まちづくり」を提案	
2019	平成31. 2. 27	三原市とIPU・環太平洋大学との包括的連携・協力に関する協定を締結
		三原市議会災害時対応要領策定
	3. 1	NZパーマーストン・ノース市と姉妹都市提携を締結
	3. 21	三原市駅前東館跡地活用事業の安全祈願祭を実施
	3. 28	高坂自然休養村がリニューアルオープン
	4. 1	三原市新斎場建設工事の安全祈願祭を実施
	4. 19	市役所新庁舎の落成記念式典を実施
	4. 20	市役所庁舎を閉庁
	4. 26	市役所新庁舎が開庁
	令和 1. 5. 7	在ニュージーランド日本国大使館 特命全権大使が来庁
		平成30年7月豪雨災害により被災した船木コミュニティセンターの利用を再開
		平成30年7月豪雨災害により被災した三原市西部共同調理場で調理を再開
		平成30年7月豪雨災害により被災した本郷ひまわり保育所で保育を再開

8. 市の位置

東経 132度50分50秒～133度09分45秒

北緯 34度18分57秒～34度35分38秒

東西 32.7km

南北 36.3km

平均気温（平成30年） 16.5度

年間降雨量（平成30年） 1,493.0mm

※観測地点は、三原市宮浦



9. 人口及び世帯数の推移

国勢調査10.1 住民登録4.1現在（単位：人，世帯）

区 分	人 口			世帯数	1世帯 平均人員	人口密度 (人/㎢)
	総 数	男	女			
平成7年 国勢調査	108,617	51,611	57,006	36,946	2.94	230.6
平成12年 国勢調査	106,229	50,377	55,852	38,499	2.76	225.5
平成17年 国勢調査	104,197	49,731	54,466	39,904	2.61	221.2
平成22年 国勢調査	100,509	47,865	52,644	40,247	2.50	213.3
平成25年 住民登録	99,673	47,543	52,130	43,567	2.29	211.5
平成26年 住民登録	98,917	47,271	51,646	43,732	2.26	209.9
平成27年 国勢調査	96,194	45,730	50,464	39,888	2.41	204.0
平成28年 住民登録	97,472	46,653	50,819	44,061	2.21	206.7
平成29年 住民登録	96,360	46,185	50,175	44,005	2.19	204.3
平成30年 住民登録	95,053	45,493	49,560	43,780	2.17	201.6
平成31年 住民登録	93,653	44,897	48,756	43,631	2.15	198.6

※外国人を含む。平成7年，平成12年は現市域に組みかえた数値。

10. 主要指標

区 分	人 口 動 態				
	住民登録人口 4.1現在(人)	出生 (人)	死亡 (人)	転入 (人)	転出 (人)
平成27年度	95,615 (97,472)	697	1,279	2,988	3,085
平成28年度	94,418 (96,360)	595	1,272	2,795	3,077
平成29年度	93,097 (95,053)	594	1,346	2,631	2,961
平成30年度	91,565 (93,653)	570	1,382	2,824	3,175

※()内は外国人登録を加えた数値

区 分	労 働			
	職 業 紹 介			
	新規求職申込 件数 (件)	新規求人数 (人)	就 職 件 数 (件)	雇用保険受給者 実員数 (人)
平成28年度	3,152	8,327	1,721	4,120
平成29年度	2,992	8,561	1,702	3,373
平成30年度	3,137	8,391	1,523	4,661

※パートタイムを含む。

区 分	水 道
	水道有収水量 (m ³)
平成28年度	9,892,900
平成29年度	10,057,653
平成30年度	9,396,869

区 分	運 輸 (海 上)					
	港船舶乗込人員 (人)		糸崎港貨物取扱 (t)		糸崎港入港船舶	
	乗込	上陸	輸移出	輸移入	隻数	総屯数
平成28年	203,782	207,284	560,529	605,487	20,862	2,218,780
平成29年	207,593	209,380	611,386	637,983	20,866	1,973,812
平成30年	216,034	205,467	715,000	710,450	20,216	1,974,152

区 分	運 輸 (陸 上)				
	乗車人員数 (人)				
	三原駅	須波駅	安芸幸崎駅	糸崎駅	本郷駅
平成28年度	2,322,410	29,660	101,855	246,553	676,415
平成29年度	2,319,078	29,228	87,766	245,299	674,822
平成30年度	2,262,378	21,891	64,914	231,478	577,611

区 分	福 祉			
	抛出制国民年金 加入者数 (人)	福 祉 年 金 受給者数 (人)	国民健康保険被保険者	
			世 帯	人 員
平成28年度	15,228	950	13,737	21,519
平成29年度	14,515	953	13,349	20,685
平成30年度	14,147	945	13,082	20,136

区 分	消 防 () 市内区分		
	火災発生件数 (件)	焼損棟数 (棟)	救急車出場件数 (件)
平成28年	49(36)	43(38)	5,081(4,330)
平成29年	67(45)	30(15)	5,301(4,492)
平成30年	80(61)	40(37)	5,397(4,606)

区 分	警 察			
	刑法犯検挙 件数 (件)	犯罪少年検挙 人数 (人)	交通事故発生 件数 (件)	交通事故死傷 者数 (人)
平成28年	259	15	336	434
平成29年	243	35	312	2
平成30年	277	37	194	249

※刑法犯・犯罪少年については三原警察署管内、交通事故については三原市内発生 の件数である。

11. 市庁舎

本庁舎

- (1) 所在地 三原市港町三丁目5番1号
敷地面積 5,730.08㎡
建築面積 2,135.08㎡
延床面積 12,561.32㎡
全体事業費 6,630,819千円
事業期間 平成26年度～平成31年度
構造 基礎免震構造, R C造・一部鉄骨造
- (2) 現況 建築面積1,960.84㎡・延床面積12,245.82㎡

令元.5.7現在

区分	本庁舎	本庁舎庇※	ごみ置場	駐車場庇※	駐輪場※
建築面積 (㎡)	1,929.87	—	30.97	98.40	75.84
同延面積 (㎡)	12,214.85	46.56	30.97	130.50	139.04
階層	地上8階 塔屋1階	1階	1階	1階	1階

※本庁舎庇・駐車場庇・駐輪場については、平成31年度末完成予定。数値は設計値。

本郷支所庁舎

- (1) 所在地 三原市本郷南6丁目3番10号
敷地面積 7,078.85㎡
建築面積 909.85㎡ (建築延面積 1,625.59㎡)
工事費 70,435千円
財源内訳 一般財源 25,435千円
地方債 35,000千円
基金 10,000千円
工期 着工 昭和43年3月 竣工 昭和43年11月
構造 鉄筋コンクリート造3階建
- (2) 現況 建築面積 1,373.94㎡ (建築延面積 2,241.83㎡)

平31.4.1現在

区 分	庁 舎	別 館	渡 廊 下
建築面積(㎡)	1,039.02	312.12	22.8
建築延面積(㎡)	1,662.54	556.49	22.8
階 層	3 階	2 階	1 階
軒 高(m)	15.53	7.54	2.77
最 高(m)	18.02	7.56	2.86

※昭和56年度事務室増築 (R C鉄骨造)
平成6年度別館新築 (軽量鉄骨造)
平成14年度別館増築 (軽量鉄骨造)
平成15年度屋外階段建替 (鉄骨造)

久井支所庁舎

- (1) 所在地 三原市久井町和草615番地1
敷地面積 4,258.33㎡
建築面積 968.89㎡ (建築延面積 1,692.30㎡)
工事費 272,781千円
財源内訳 町債 179,000千円
一般財源 93,781千円
工期 着工 昭和54年3月 竣工 昭和54年12月
構造 鉄筋コンクリート造2階建
- (2) 現況 建築面積 1,278.29㎡ (建築延面積 2,120.04㎡)

平31.4.1現在

区分	庁舎	車庫	書庫・車庫	車庫	倉庫
建築面積(㎡)	968.89	54	122.20	90	43.2
同延面積(㎡)	1,692.30	54	240.54	90	43.2
階層	2階	1階	2階 (1階車庫 2階書庫)	1階	1階
軒高(m)	3.82	3.3	2.54	2.4	3.1
最高(m)	12.42	3.8	5.74	3.2	3.1

※平成5年3月31日車庫・書庫建築(鉄骨造)

大和支所庁舎

- (1) 所在地 三原市大和町下徳良111番地
敷地面積 7,613.10㎡
建築面積 1,803.71㎡ (建築延面積 3,216.85㎡)
工事費 1,026,220千円
財源内訳 一般財源 136,191千円
町債 250,000千円
基金繰入金 640,029千円
工期 着工 平成4年12月5日 竣工 平成5年10月25日
構造 庁舎 鉄骨鉄筋コンクリート造3階建・塔屋付
車庫・倉庫棟 鉄骨鉄筋コンクリート造2階建
- (2) 現況

平31.4.1現在

区分	庁舎	車庫・倉庫棟
建築面積(㎡)	1,693.46	110.25
同延面積(㎡)	2,996.35	220.50
階層	地上3階 塔屋1階	2階
軒高(m)	13.2	7.6
最高(m)	19.9	9.4

12. 三原市長期総合計画

1. 基本構想

(1) 議決年月日

平成26年9月25日

(2) 策定の趣旨

我が国は、人口減少・少子高齢化、経済のグローバル化など、社会構造が大きく転換する時代を迎えており、三原市を取り巻く環境は、新市誕生時の予想を上回るスピードで変化し、それに伴う市民ニーズの多様化、地域の課題が刻々と顕在化しています。三原市の実情や特性を踏まえたうえで、ヒトもモノも多様に変化する時代に対応するまちづくりを、市民とともに進めていく必要があります。

このため、将来のまちの姿を明らかにし、市民と市が協働しオール三原で実現をめざして取り組むまちづくりの指針として、この計画を策定しました。

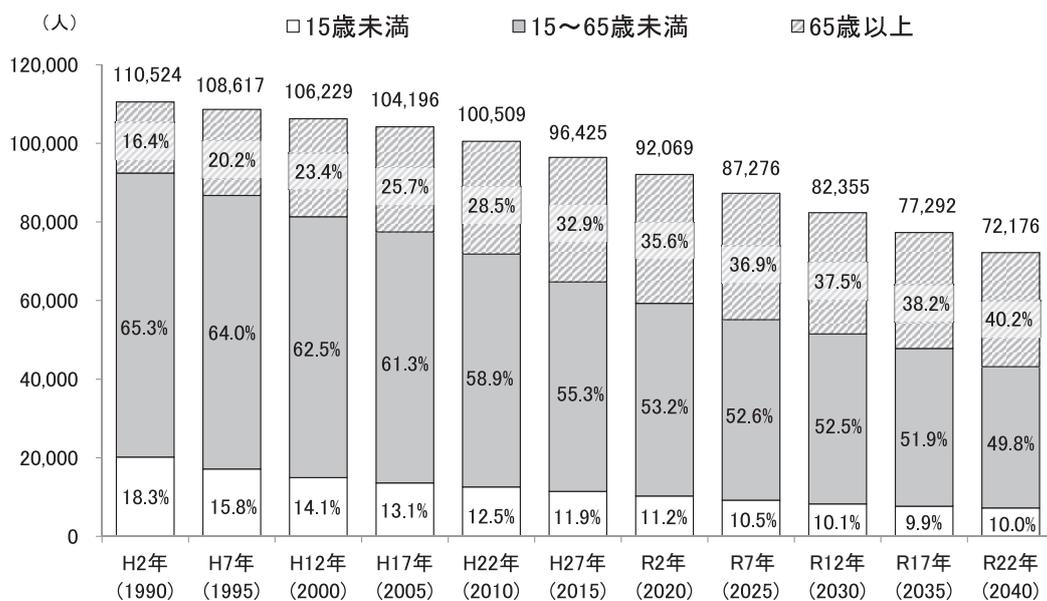
(3) 三原市の人口・世帯数の見通し

今後の人口・世帯数の見通しは次のとおりです。こうした人口動態の変化を踏まえ、まちづくりを進めていく必要があります。

①人口

人口は、今後も減少傾向が続くことが予想され、令和7（2025）年には約87,000人になる見通しです。年齢別では、年少人口（15歳未満）と生産年齢人口（15歳～65歳未満）は減少傾向、高齢者人口（65歳以上）は増加傾向にあります。令和2（2020）年を境に高齢者人口も減少に転じる見通しです。

○人口の見通し



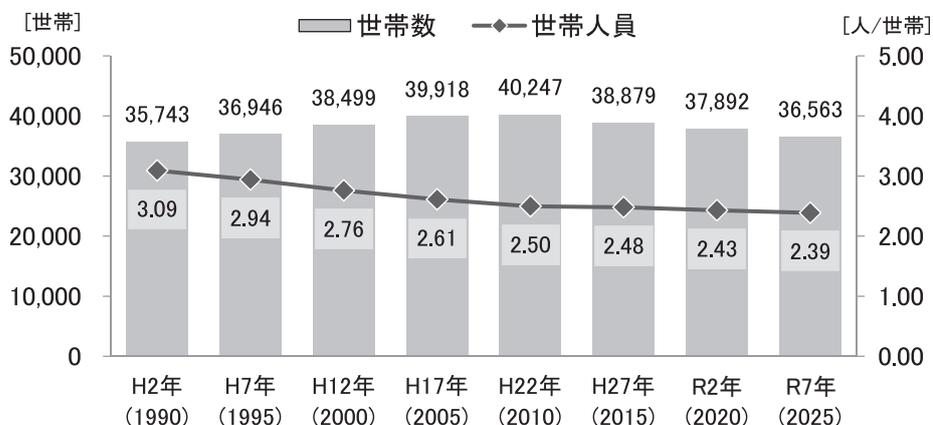
【出典及び推計方法】

平成2～22年は国勢調査による実績値、平成27～令和22年は国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成25年3月推計）」に基づく推計値。

②世帯数

世帯数は、核家族化・単身世帯の増加により、これまで増加傾向にありましたが、人口減少に伴い、今後は減少に転じる見通しです。世帯人員は、引き続き減少する見通しです。

○世帯数の見通し



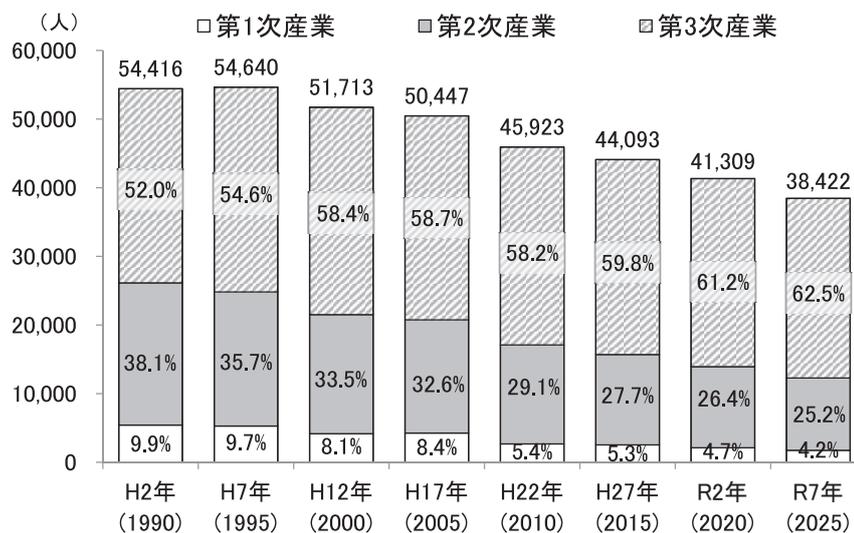
【出典及び推計方法】

平成2～22年は国勢調査に基づく実績値、平成27～令和7年は、世帯人員は実績値に基づくトレンド法による推計値、世帯数は将来人口推計と世帯人員に基づく推計値。

③就業人口

就業人口は、生産年齢人口（15歳～65歳未満）を中心とした人口減少が進み、今後も減少し続ける見通しです。

○就業人口の見通し



【出典及び推計方法】

平成2～22年は国勢調査による実績値、平成27～令和7年は実績値に基づくトレンド法による推計値。

平成22～令和7年の総数には、分類不能の産業を含む。

(4) 市民の想い

この計画策定のために実施した市民アンケートや市民ワークショップ、団体ヒアリングなどで寄せられた、三原市のまちづくりに対する市民の想いは次のとおりです。

今後はこのような市民の想いを踏まえ、活力と安心のまちづくりを進めていく必要があります。

①活力あるまちづくりへの期待

市民アンケートによる「今後10年間で特に力を入れるべき分野」では、「中心市街地の活性化」、「企業誘致などによる雇用の場の確保」に対する回答が最も多くなっています。また、「観光振興」は、5年前、10年前の同様の調査結果と比べ、回答が増加し、市民の意識が高まっています。久井・大和地域では、基幹産業である「農林水産業の振興」に対する回答が多くなっています。

「三原市で住みにくいと感じるところ」では、「娯楽・レジャーの少なさ」に対する回答が最も多く、まちの賑わいや生活に楽しさを与える都市機能の充実などが求められています。

今後10年間のまちづくりでは、何よりも第一に「活力あるまちづくり」が期待されています。

②安心して暮らせるまちづくりへの期待

市民アンケートによる「三原市で住みやすいと感じるところ」では、「自然災害に対する心配の少なさ」、「自然環境のよさ」などの回答が多く、住みやすさが評価されている一方で、「三原市で住みにくいと感じるところ」では、60歳代以上や久井・大和地域などを中心に「交通の不便さ」、「日常の買い物や飲食の不便さ」などの回答が多くなっています。また、「今後10年間で特に力を入れるべき分野」では、すべての世代を通じて回答が多かった「保育・子育て支援の充実」、60歳代以上からの回答が多かった「高齢者福祉の充実」などの意見が寄せられています。

人口減少、少子高齢化が進む中、恵まれた自然環境など地域特性を活かすとともに、地域公共交通の充実をはじめとした生活利便性の向上、さらには、福祉や子ども・子育て支援の充実など、今後も「安心して暮らせるまちづくり」が期待されています。

③まちづくりに対する取組姿勢

市民ワークショップや団体ヒアリングなどでは、活力、安心など取組の内容に対する意見に加えて、自然環境の良さや災害の少なさ、歴史・伝統など「三原市の地域特性・地域資源を活かすまちづくり」や、市内の各地域がお互いを高め合うことで市全体の魅力を向上させる「地域の独自性を磨くまちづくり」、市民が自らのため、まちのために「主体的に活動ができるまちづくり」など、まちづくりに対する取組姿勢を市も市民も見直していくことが期待されています。

(5) 三原市の将来像

①基本理念

すべての市民が安心を感じ、いきいきと暮らせるまちづくりは、いつの時代においても欠かすことができない、基礎自治体の普遍的な使命であり、今後もまちづくりの土台です。

一方、経済のグローバル化や産業の空洞化が深刻となる中、全国平均を上回るスピードで人口減少・少子高齢化が進む三原市が、将来にわたり生き残っていくためには、これからの10年間、臆することなく挑戦を続け、活力を生み出すことが何よりも強く求められています。

三原市のまちづくりで大切にすることは「元気」です。「元気」とは、福祉や防災、教育など、

市民生活を支えるハード・ソフトの両面が整った「安心」を基盤に、市や市民など一人ひとりの主体的な活動と連携を力に、これまでに培ったまちの特長を見つめ、活かし、継承するとともに、時代の変化に対応し、新しい価値の創造や起業などに次々と挑戦していく「活力」のあるまちの姿です。

瀬戸内海に面し、広島空港や山陽新幹線をはじめとした交通結節機能があり、人が行き交う大きな流れの中にある三原市は、仕掛け次第で、ヒト・モノ・カネを呼び込むことができる、大きな可能性を秘めたまちです。その可能性を信じ、市民一人ひとりの力を結集して、瀬戸内の中で光る「元気」の実現をめざして取り組むとともに、全国や世界にも目を向けながら、「元気」を発信し、人を惹きつけ、さらなる元気の創造につなげます。

こうしたまちづくりを通じて、県内外や世界から「行きたい、住みたい」と思われ、市民がまちへの誇りと愛着を持ち「住みたい」と感じ、さらには、世界や全国、市内の各地域や市民一人ひとりが、三原市をきっかけに「つながりたい」という思いが広がるような、世界へはばたく元気な三原の実現をめざします。

これらの基本理念に基づき、三原市の将来像を次のとおり定め、市民・企業・行政等が共通の認識を持ち、その実現に取り組めます。

行きたい 住みたい つながりたい

世界へはばたく 瀬戸内元気都市みはら

②三原元気戦略

元気な三原の実現に向け、一つひとつの施策・事務事業を着実に進めていく一方で、「三原が良くなった」と市民が実感できるものとするため、元気を構成する「活力」、「安心」の観点から、次のような方向に対し、積極的かつ重点的な取組を展開します。

ア. 活力づくり

新たな活力の切り札となる企業誘致、既存企業の技術集積を活かす新たな産業分野の開拓、ベンチャー・新産業の起業支援、地域の特性に応じた園芸産地の育成と水田の活用、新たな営農モデルの構築や6次産業化など、担い手の育成を柱とした農林水産業の振興など、多様な産業集積により働く場としてのまちの活力を高めます。

生産年齢人口（15歳～65歳未満）が減少する中で圏域内の経済規模を維持・向上させるためには、市外から人が来て、消費し、市内でお金が回る仕組みの構築が欠かせません。瀬戸内海の多島美は世界に通用する観光資源であるとの認識のもと、観光産業を大きな柱として位置づけ、広域連携という視点を持ちながら、地域資源を磨くとともに、中世日本城郭の変遷を偲ぶ新高山城跡や三原城跡などの貴重な歴史・文化を再発見し、観光客への「おもてなし」を通じて市民一人ひとりにまちへの愛着と誇りが生まれ、国内外から人が訪れる交流の場としての

まちの活力を高めます。

三原市の歴史・文化とのふれあい、地域における人と人とのふれあいの機会づくりにより、市民の郷土三原への誇りと愛着を醸成し、そうした環境の中で育った人材が世界の舞台で活躍し、交流を広げ、そして経験を活かして、まちづくりに貢献する未来の担い手を育むことで、まちの活力を高めます。

イ. 安心づくり

将来の三原市を支える子ども一人ひとりが、個性を活かし、のびのびと、心豊かに、たくましく成長できる環境を整えるとともに、保護者が安心して子育てと仕事を両立できる環境・仕組みをつくることで、まちの安心を高めます。

市民がライフステージに応じた健康を身に付け、自分の健康を実感でき、人とのつながりづくりと支えあいの仕組みを構築し、まちの安心を高めます。

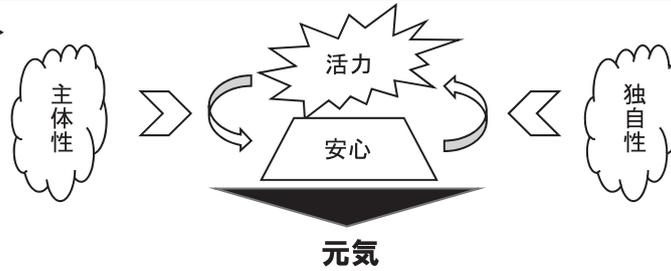
自然環境の豊かさ、災害の心配の少なさなど、三原市の住み良さの特長を伸ばすため、防災・減災対策をはじめとしたハード面の環境整備に努めるとともに、防災における共助、環境保全をはじめとした市民活動など、地域特性を活かすソフト面の仕組みをつくることで、まちの安心を高めます。

(6) 施策の大綱

元気な三原の実現に向け、分野ごとに取り組むべき施策の方向として、5つの基本目標を設定し、市や市民など多様な主体の協働による取組を推進します。

<三原市の将来像>

[基本理念]



[将来像] 行きたい 住みたい つながりたい
世界へはばたく 瀬戸内元気都市みはら

<三原元気戦略>

活力づくり 安心づくり

<基本目標>

基本目標 1	基本目標 2	基本目標 3	基本目標 4	基本目標 5
<p>新しい三原をつくる</p> <p>協働のまち</p>	<p>地域の文化と</p> <p>多様な人材を育むまち</p>	<p>多様な産業と多彩な交流による</p> <p>活力あるまち</p>	<p>健やかに暮らせる</p> <p>人に優しいまち</p>	<p>安心して快適・安全に</p> <p>住み続けられるまち</p>
<p>1-1 人権・男女共同参画</p> <p>1-2 元気な地域</p> <p>1-3 市民協働</p>	<p>2-1 教育</p> <p>2-2 生涯学習, 文化・スポーツ</p>	<p>3-1 商工業・サービス業</p> <p>3-2 農林水産業</p> <p>3-3 観光・交流</p> <p>3-4 交流・連携基盤</p>	<p>4-1 子ども・子育て</p> <p>4-2 健康・医療</p> <p>4-3 福祉・介護</p>	<p>5-1 防災</p> <p>5-2 生活の安全安心</p> <p>5-3 環境</p> <p>5-4 生活基盤</p>

<計画の実現に向けて>

- 6-1 効果的・効率的な行財政運営
- 6-2 透明性の高い行政運営と情報発信
- 6-3 地方分権型社会に対応した行政経営

基本目標 1 新しい三原をつくる協働のまち

元気な三原を実現するためには、基本的人権の尊重という基盤の上に、多彩な活動を通じて三原を支える「人」の力が不可欠です。

一人ひとりの力を結集し、より大きな力に変えていくことができる、新しい三原市のまちづくりの仕組みの構築をめざします。

基本目標 2 地域の文化と多様な人材を育むまち

元気な三原を実現するためには、将来を担う子どもたちがたくましく育つとともに、誰もが生涯を通じて、自由に学習や運動する機会を持ち、三原市への愛着と誇りを持つことが大切です。

学校教育環境を充実させるとともに、地域の文化、スポーツ、芸術活動などが活発になり、三原市の独自性が発揮されるまちをめざします。

基本目標 3 多様な産業と多彩な交流による活力あるまち

元気な三原を実現するためには、市内で多様な産業活動が行われるとともに、三原市の資源を全国・世界へ発信し、「ヒト・モノ・カネ」を呼び込み、経済の維持・成長につなげていくことが大切です。

三原市は、陸・海・空の交通結節機能を有し、商工業や農林水産業など「働くまち」として発展してきたまちです。これまでに培った地域資源を活用し、多様な産業と多彩な交流を生み出す、活力あるまちをめざします。

基本目標 4 健やかに暮らせる人に優しいまち

元気な三原を実現するためには、子どもから高齢者まですべての世代の人が、生涯を通じて社会に参加でき、いきいきと豊かな生活を送ることが大切です。

地域で互いに思いやりをもって、ともに支え助け合うことで、誰もが安心して自立した生活を送ることができる環境づくりを推進するとともに、子どもがのびのびと育ち、子育てしやすいまちをめざします。

基本目標 5 安心して快適・安全に住み続けられるまち

元気な三原を実現するためには、その前提として、市民が、三原市の豊かな自然の魅力を感じ、災害や犯罪などの危険が少なく、日常生活の利便性が保たれた環境で生活できることが大切です。

人口減少が進む中、コンパクトシティの推進をはじめ、持続可能な生活の基盤をハード・ソフトの両面から整え、誰もが安心して快適・安全に住み続けられるまちをめざします。

(7) 計画の実現に向けて

この計画を実現するためには、厳しい経営環境の中、限られた行政経営資源を施策の重要度と優先度に応じて最適に配分・投入できる仕組みを構築することが必要です。

また、基礎自治体としての三原市が、自主性と自立性を高め、経営基盤を強くするとともに、広域的な視点で相互に補完する連携が必要です。

こうした点を踏まえ、元気な三原の実現に向けた行財政運営の基盤づくりを推進します。

2. みはら元気創造プラン（三原市長期総合計画基本計画）

(1) 策定の主旨

基本構想で掲げた「三原元気戦略」や「5つの基本目標」を具体的に推進するにあたり、施策の

基本的方向及び目標を明確にし、オール三原でまちづくりに取り組むため、基本構想の中間年次にあたる平成31（2019）年度までの5年間を計画期間とする「みはら元気創造プラン（三原市長期総合計画基本計画）」を策定しました。

計画の推進にあたっては、市民や職員の一人ひとりが三原への愛着をより一層深め、目標達成に向けて常に挑戦する姿勢を持ちながら、協働してまちづくりに取り組むとともに、取組過程を検証し、継続的に改善を進めることで、より効果的、効率的に施策を推進します。

(2) 計画の期間

平成27（2015）年度から平成31（2019）年度までの5年間

(3) 計画の構成

① 5つの挑戦

「三原元気戦略」では、＜活力づくり＞の中で①産業振興、②観光振興、③人材育成を、＜安心づくり＞の中で①子ども、②健康、③住み良さを、合わせて6つの方向性を整理しました。

「三原元気戦略」の実現のためには、これまでの取組を継続・強化するとともに、より効果的な取組を、新たな視点で、かつ、全庁的な連携のもとで推進することが必要です。

このため、「三原元気戦略」に基づき、特に優先的・重点的・全庁的に挑戦していくべき項目を「5つの挑戦」として定めました。

これからの5年間、各挑戦を実現させる取組の事業効果を向上させるため、常に見直ししながら進行管理することで、将来像の実現を図ります。

【働く場づくりへの挑戦】

市の活力づくりに向け、多くの人が市内で働くことができる環境を整備し、安心して暮らせるまちづくりにつなげていくことが必要です。

企業への支援や新たな誘致、農業経営の強化や担い手確保、女性や高齢者等が働きやすい環境整備などを進め、さらなる働く場づくりに挑戦します。

【交流人口拡大への挑戦】

市の活力づくりに向け、観光を新たな産業の柱として位置づけ、交流人口の拡大をきっかけに、地場産業の振興や雇用の確保などにつなげていくことが必要です。

三原城築城450年をきっかけとした観光のまちづくり、歴史や文化、食などの資源を活用した誘客体制を整備し、交流人口拡大に挑戦します。

【子ども・子育て充実への挑戦】

子どもを生き育てやすい環境であるとともに、子ども達の確かな学力や心身の成長を促すことができる環境は、市の未来の担い手育成や暮らす場所としての魅力という点でも欠かせません。

男女の出会いから結婚、出産、親子の健康、保育から学び、生活の支援まで、子ども・子育て世代への支援の充実に挑戦します。

【市民の健康づくりへの挑戦】

ライフステージに応じた健康づくりを支援し、市民一人ひとりがいつまでも地域で暮らせるとともに、それぞれの目標に向けた生活が送れる土台となる、健康を実現できるまちづくりが必要です。

健康づくりの成果をフィードバックするなど、個人個人の自覚を高め、地域全体で健康なまちづくりに挑戦します。

【住み良さ向上への挑戦】

市民が住み良さを感じ満足して生活できる環境整備が、市外の人も三原に住みたいと思いはじめるきっかけとなります。

防災や環境などの生活・都市基盤整備や市民が活動しやすい環境づくり等を通じ、市民が住み続けたい、定住の場所として選ばれるまちづくりに挑戦します。

②各論

基本構想に掲げた基本目標の実現に向けて、19政策及び48施策を定めました。施策ごとに現状・課題を踏まえて基本方針を整理し、施策の目標（施策がめざす三原市の姿）、目標の達成度を測る指標、取組を設定しました。

13. 県立広島大学三原キャンパス

(1) 三原キャンパスの概要

- ・経 緯 平成 7年 4月 広島県立保健福祉短期大学開学
平成12年 4月 広島県立保健福祉大学開学（4年制に移行）
平成17年 4月 県立広島大学三原キャンパス開学（県立3大学の統合）
平成19年 4月 公立大学法人県立広島大学設立
平成21年 4月 助産学専攻科設置

・所在地 三原市学園町1番1号

・設置学部 保健福祉学部，助産学専攻科，総合学術研究科保健福祉学専攻

・学科構成と定員

(単位：人)

学 科	入 学 定 員	収 容 定 員
看 護 学 科	60	240
理 学 療 法 学 科	30	120
作 業 療 法 学 科	30	120
コミュニケーション障害学科	30	120
人 間 福 祉 学 科	40	160
合 計	190	760

・専攻科の構成と定員

(単位：人)

専攻科名(キャンパス)	入 学 定 員	収 容 定 員
助産学専攻科(三原)	10	10
合 計(1専攻科)	10	10

・大学院の構成と定員

(単位：人)

研究科名及び専攻名	入 学 定 員	収 容 定 員
総合学術研究科 保健福祉学専攻(修士課程)	20	40

(2) 県立広島大学との連携

・包括的連携・協力に関する協定の締結

締結日 平成18年4月7日

目 的 これまでの連携の実績を基盤とし，さらに緊密かつ組織的な連携・協力体制をとることにより，本市にあっては地域課題の解決や住みよいまちづくりを一層推進し，大学においては地域に根ざした教育・研究の充実と地域社会への貢献を図ることを目的とする。

連携・協力内容

- (1) 観光振興や産業活性化による地域経済の発展に関すること。
- (2) 保健・医療・福祉の向上に関すること。
- (3) 住民と行政の協働の推進に関すること。
- (4) 教育・文化の振興，生涯学習の推進に関すること。
- (5) 環境の保全及び農林水産業の振興に関すること。
- (6) その他，目的を達成するために必要と認められる事項

・三原地域連携推進協議会

設 立 平成16年11月1日

目 的 三原地域における大学と地域との交流及び産学官連携を推進し，地域の発展に寄与することを目的とする。

組 織

三原地域連携推進協議会 会長 三原市長 副会長 2名 事務局 三原市経営企画課
(組織構成) 県立広島大学，産業団体，医療・福祉団体，三原市， 関係行政機関等
(事業内容) 地域連携推進協議会事業の総合調整



<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">地域交流部会</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">産学官連携部会</div>
事務局 県立広島大学三原キャンパス	事務局 三原商工会議所
(構成) 県立広島大学三原キャンパス 三原市医師会，三原市社会福祉協議会， 広島県，三原市	(構成) 県立広島大学三原キャンパス 三原市商工会議所，産業団体，広島県， 三原市 他
(事業内容) 地域との交流促進 <ul style="list-style-type: none"> ・三原シティカレッジ ・各地域出前講座 ・学生ボランティア活動支援 ・シンポジウム開催 他 	(事業内容) 産学官連携の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・産学技術交流相談室 ・産学官交流セミナー ・課題別研究 ・人材育成事業